

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	やまなしけんりつこうふ だいいち こうとうがっこう				②所在都道府県	山梨県
26～30	①学校名	山梨県立甲府第一高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科3学年18クラス	
	普通科	40	40	40		120	英語科3学年3クラス
英語科	40	40	40		120		
⑥研究開発構想名	テーマ「主体的に課題を解決できる山梨発グローバルリーダーの育成」						
⑦研究開発の概要	「今後のグローバル戦略について、日本の第1次・第2次産業を中心に、その現状を世界的な評価を含め調査分析し、提案、実行する」ことを研究の柱とし、日本を代表する山梨のワイン、桃等、地場産業品、伝統工芸品、第1次産業の活性化を対象に、グローバルな商品開発を行うとともに、それぞれの社会的課題について探究し、その成果を提案、実行する取組を行う。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本校は創立133年を迎えた山梨県随一の伝統校であり、様々な伝統行事を通じて多くの有為な人材を輩出してきた。近年は、何ごとに対しても真面目に取り組むが、自ら考えて行動する積極的な生徒が年々減少してきており、グローバル化が急激に進む現代社会で活躍できるかについては課題が残る。そこで、SGHの導入により、高校生段階で世界の人々と関わり、世界を舞台に主体的に課題を解決し、地元の山梨や日本の社会に貢献し活躍できる人材を育成することを目的とする。そのために生徒に身に付けさせたい力として次の2点を目標として取り組む。</p> <p>①論理的な思考力・判断力 ②実践的なコミュニケーション能力</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>従来、本校では論理的な思考力・判断力を鍛えるために教科・科目はもとより「総合的な学習の時間」で自己の在り方や生き方を深く考えさせる取組や「ドリームリアルプラン」という職場研修を軸にして自己のキャリアについて深く考えさせる取組を行ってきた。しかし、大学や企業との連携は本格的には実施していない。また、グローバル化に対応できる語学力等の交渉力は、生徒が海外で活躍するためには十分なものであるとは言えない状況である。さらに、他の教科においてもグローバルな観点が必要な現状にある。そこで、SGHの導入に伴い、次のようなことが期待できる。</p> <p>①SGHの導入に伴い、研究機関である山梨大学、山梨県立大学との連携によりハイレベルな課題探究ができ、論理的な思考力・判断力の養成につなげることができる。</p> <p>②現実に経済活動を展開している企業（サドヤ、勝沼醸造、JA山梨中央会、印傳屋上原勇七）との連携により、実践的な課題探究を行うことで、キャリア意識を高めることができる。</p> <p>③グローバルな課題探究に取り組むなかで、国際的な交渉を行う際に必要になる交渉力を高める取組により、世界のどこに行っても引けをとらないグローバルなコミュニケーション能力を身に付けることができる。</p> <p>④地歴公民科や芸術科のグローバルな視点の導入により、国際的な交渉に必要な異文化理解を深め、海外での調査研究の円滑化を図ることができる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>①他のSGH指定校と情報交換や交流活動を活発に行うことで、相互協力を推進する。</p> <p>②県内周辺高校を中心としたネットワークであるSGH連絡協議会を設置し、本校の取組や研究内容を適切に発信する。また、情報共有により共同研究の可能性も探る。</p> <p>③本校の取組の現状について、常にホームページで時宜を得た情報を提供し、学校関係者をはじめ、大学や企業等との連携が円滑になるように図り、今後のSGHの在り</p>					

		<p>方について広く意見を聞くことができる体制づくりを進める。</p> <p>④研究結果を「SGH研究集録」にまとめ、県内全高校と関係機関に送付し、内容を一般に公開する。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -2 課題研究</p>		<p>(1) 課題研究内容</p> <p>山梨県では、富士山の世界文化遺産登録、リニアモーターカーの実用化などを背景として、インバウンド観光を含めたグローバル戦略を提案・実行することが急務となっている。そこで、山梨が誇る産業である、山梨のワイン、桃等の果実、地場産業品、伝統工芸品、第1次産業の活性化を題材として課題研究を実施する。内容は、各対象品の世界的な評価を調査分析し、各物品および産業の在り方を探る。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>平成26年度は、「グローバルな視点を開く」をテーマとして学校設定科目「グローバル探究Ⅰ」の取組により進める。「論理的な思考力・判断力」、「実践的なコミュニケーション能力」の基礎作りを目指し、国内を中心とした実地調査および研究を行い、年度末に中間発表を行う。初年度は、生徒の視点を海外に開かせることを目標とする。具体的には、山梨大学および山梨県立大学との高大連携、地元企業との連携を中心に研究調査を進めていく。また、行政との連携を密に図り、ブランド推進課等には指導助言を受け、知事がワインや果樹のPRで海外に出向く際には本校生徒が随行できる体制を整備できるように協力を依頼する。検証評価については、大学と共同で開発するルーブリックにより行う。具体的には、年度末の生徒の中間発表を中心に、研究レポートや授業・実習態度等の内容を外部講師の評価も交えて評価を行う。</p> <p>大学・企業との連携によるグローバルな課題の探究を柱として、学校設定科目の「グローバル探究」において、将来グローバルに活躍できる人材の育成を行う。最終的にはグローバル戦略を提案し、実行することを目標とする。調査や研究のために、大学や企業と密接に連携をとり指導・助言・講義を受ける中で内容を深めていく。また、国内外の調査だけでなく、県や企業のPR活動に際し、海外に同行するなどの海外体験を積極的に導入する</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>課題探究の中心として学校設定科目「グローバル探究」を位置づける。</p> <p>1年次の「グローバル探究Ⅰ」（3単位）は、「総合的な学習の時間」（1単位）、情報科の「社会と情報」（1単位）を代替し、長期休業中の大学での集中講義（1単位）を含む。2年次の「グローバル探究Ⅱ」（1単位）、3年次の「グローバル探究Ⅲ」（1単位）と呼称するが「総合的な学習の時間」（1単位）で行う。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -3 上記以外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>教科・科目の中でグローバル人材育成に必要な力を身に付けられる次の取組を行う。</p> <p>①英語科では「英語表現」、「異文化理解」などの授業の中で、国際的な場面で正確に発信できる英語力を身に付けるために、ディスカッションやプレゼンテーションなどの発信力を意識した取組を行う。</p> <p>②地歴公民科では1年次の「世界史A」の授業の中で、常に世界とのリンクを意識したグローバルな視点を持つことを狙いとした取組を行う。</p> <p>③芸術科では1年次の「美術Ⅰ」「音楽Ⅰ」「書道Ⅰ」で日本文化の良さを認識しながら世界の文化に目を向け、様々な国内外の芸術作品に触れる機会を多く持たせることで、文化をグローバルに捉える視点を持つことを狙いとした取組を行う。</p> <p>検証評価は、各教科での活動をもとに行う。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバルリーダー育成に関する環境整備、教育課程外の取組内容・実施方法</p> <p>企業で活躍する同窓生等の活用によりリーダーシップ研修を行い、グローバルリーダーとしての資質向上を図る。また、調査研究に活用できるICTの推進を図る。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑨その他</p>		<p>なし</p>

ふりがな	やまなしけんりつこうふだいいちこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	山梨県立甲府第一高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(28年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	64人
	SGH対象生徒以外:		人	45人	人	人	人	160人
目標設定の考え方: 進んでボランティア活動等に参加する生徒の育成を目指し、恒常的に8割以上の生徒が参加するようにさせたい※以下、目標値は単年度の学年(対象クラス2クラス80名)を対象とする								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:		20人	20人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: オーストラリアへの海外研修参加者は毎年20名ほどが希望しているが、グローバルな視点を持てる生徒の育成を目指し、毎年30人以上の参加を促したい								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		%	5%	%	%	%	20%
目標設定の考え方: グローバルな時代に世界的な視点で将来のキャリアを考える生徒について、SGH導入を機に8割以上の生徒の意識を変えることを目指す								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:		人	0人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 思考力や判断力に優れ、自分の意見をきちんと表現できる生徒の育成を目指す。最低限度として4人に1人をめやすにする								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:		5%	5%	%	%	%	15%
目標設定の考え方: SGH推進に必要な英語力を身に付けるために、対象生徒は6割程度までのレベルの底上げを図る								
(その他本構想における取組の達成目標)								
f	SGH対象生徒:							
	SGH対象生徒以外:							
目標設定の考え方:								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(28年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:		4%	4%	%	%	%	15%
目標設定の考え方: SGHの成果を大学につなげられる生徒の育成として進学者50%以上を目指す								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	8人
	SGH対象生徒以外:		2人	1人	人	人	人	2人
目標設定の考え方: 国内の大学にこだわらず、海外での経験を積むことを志向する生徒を1割以上育成できることを目指す								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	20%
目標設定の考え方: SGHの根幹である課題研究が80%以上の生徒に影響を与えることはもちろん、その他の生徒にも相当の効果が波及することを目指す								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	64人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	10人
目標設定の考え方:								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(28年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	人	0人	人	人	人	人	人	80人
	目標設定の考え方: 全員を対象にした海外調査への派遣は2年次に計画しているので、その数をめやすにする							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	人	0人	人	人	人	人	人	80人
	目標設定の考え方: SGHにおける国内研究は、3学年全員に課せられる必須事項なので全員参加を原則とする							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	校	0校	校	校	校	校	校	3校
	目標設定の考え方: 山梨大学、山梨県立大学の海外連携大学や本校姉妹校オーストラリアのヘンリー高校を予定している							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	人	0人	人	人	人	人	人	250人
	目標設定の考え方: 山梨大学、山梨県立大学から25名ほどの教員・学生の協力を予定しており、延べで各10程度関わりを持つ							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	人	0人	人	人	人	人	人	25人
	目標設定の考え方: 5講座を予定しており、年間延べ5回1人ずつを予定している							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	人	0人	人	人	人	人	人	20人
	目標設定の考え方: プレゼンテーション力養成のために、できるだけ多くの大会に参加させる							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	1人	1人	人	人	人	人	人	1人
	目標設定の考え方: 国際ロータリークラブの交換留学生として毎年1名を受け入れているので、この数を基本とする							
h	先進校としての研究発表回数							
	1回	1回	回	回	回	回	回	1回
	目標設定の考え方: SGHの研究発表会を年1回以上開催することを目指す							
i	外国語によるホームページの整備状況							
	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
		×						○
	目標設定の考え方: 現在作成中で、26年度には整備し、年次進行でグレードアップしていきたい							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	目標設定の考え方:							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	834	824	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							